

『危機管理セミナーについて』

地区危機管理委員会
 委員長 石田 隆
 (逗子RC)



日時：9月3日(土)
 於：藤沢商工会館ミナパーク

今年度の危機管理セミナーは、講師として国際ロータリー日本青少年交換多地区合同機構(RIJYEM)のアドバイザーを務めていらっしゃる近藤眞道氏(第2660地区高槻西RC)をお招きして開催いたしました。

講師紹介：近藤眞道さんは、国際ロータリー青少年交換委員会委員として日本の青少年交換の礎を築かれ、ロータリーの危機管理の発端となった大阪国際大会青少年交換プレコン実行委員長を歴任。現在は、RI国際本部青少年交換部門担当指名、日本地区青少年交換地域リーダー、RIJYEMアドバイザーとして活動しています。

ロータリーの危機管理の変遷、当初は青少年交換学生をハラスメントから守る目的から始まり、次に青少年奉仕部門へと対象が広がりました。そして、近年ロータリアンへのハラスメントの無い環境へと対象が拡大して来ました。そして、今年度のDEIはその延長にあると考えられます。

講演では「ロータリアンがロータリアンであること」、ロータリー、ロータリアンとして「自ら恥ずべき行為や行動」を行った事が原因で起こる都合の良くない全ての事案・事件・事故が「ロータリーにとっての危機」となります。関西で発生した某RCのセクハラ事件を例にとり「ロータリアンがロータリアンであること」と説明頂きました。

行動規範にあるように高潔性と高い倫理観をも

とに行動すれば防止できた事件ではないでしょうか。次に「クライシス・マネージメント」の事例、東日本大震災での経験、当時震源地に近い宮城・福島地区の来日学生の安否確認がとれなかったことが教訓となり、現在はYESSを構築し、有事の時に学生の位置確認が可能になりました。

COVID19パンデミック発生の時の対応、2020年2月時点で日本から世界各地に200名の高校生を派遣し、同じように世界各地より日本に高校生を受け入れていてRIJYEMはその対応を迫られました。刻々と変化するパンデミックに対応すべくRIJYEMは行動指針を国内全地区へ4回発信しました。最終的には「来日学生全員を早急に彼らの母国に帰国させる」、「日本よりの派遣生徒を早急に日本に帰国させる」という基本方針を発信するに至りました。そして、ロータリーのメディア対応も慎重に対応すべきです。

最後にロータリーの危機管理において「最も重要なファクターは何か？」

目的は、人々の人権を護ることと人々の命を護ることです。それを私どもは今後も実践していかなければなりません。誰が実践するのか？ 勿論、私達ロータリアン一人一人です。

ロータリアンの行動規範、私達ロータリアンは常にこの行動規範を心に秘めて、「高い倫理観」と「社会的責任」を果たす行動、振る舞いを努力をしなければならないと自分自身の問題としていつも意識すべきです。すなわちロータリーが、「人々の人権を護り、人々の命を護る」には「ロータリアンが常にロータリアンであること」です。

